

腫瘍マーカー検査を受けられる皆さまへ

(目的・限界・結果の解釈について、ご理解いただきたいこと)

腫瘍マーカーとは、がんがあると血液中で増えることがある物質です。がん細胞や周囲組織から産生されますが、数値だけで「がんの有無」を確定することはできません。

検査の目的

- ・ **診断の補助**: 画像検査や内視鏡、診察所見と合わせて、がんの存在を推測する参考情報にします。
- ・ **治療効果判定**: 治療前後での変化を追い、効果の有無を評価します。

検査の限界

- ・ 正常値(異常なし)でも、がんが存在することがあります(偽陰性)。
- ・ がん以外でも上がることがあります。
(炎症・感染、良性腫瘍、肝腎機能異常、喫煙、妊娠・月経など)。
- ・ 一度の数値では判断困難なことが多く、経時的な変化が重要です。
- ・ がんの種類によって、マーカーに得意・不得意があるため、目的に応じて選択しています。

以上の理由から、単独での腫瘍マーカー検査は「がんのスクリーニング(早期発見)」における有用性は限定的です。画像検査・内視鏡・診察・採血などを組み合わせ、総合的に判断します。

結果の解釈とその説明

- ・ 結果は担当医が総合的に評価し、健診ないし外来でご説明します。
- ・ 数値が高い場合でも直ちに「がん」とは限りません。追加検査(画像・内視鏡・再検)や一定期間の経過観察をご提案することがあります。
- ・ 数値が低くても完全に安心とは言い切れません。症状や画像所見を踏まえて必要な検査を検討します。

2026.01